

みんなで考えつく、 あたらしいまち。

西成区社会福祉協議会 —— 生活支援体制整備事業

みんなの居場所
「書道サークル」
コロナ対策を
しながら再開！

の巻



玉出にある「みんなの居場所」は、長年地域に親しまれた喫茶店が閉店した後、
カフェやサークル活動などを通じて、交流や活動ができる場所としてH29.12月にオープン。

みなさん、思い思いに「みんなの居場所」を
楽しんでおられました



しかし！

新型コロナウイルス感染症の影響で
カフェやサークル活動が中止に。
活動見合わせが続く中、
利用していた方や活動されていた方から
再開を望む声がいろいろ寄せられました。

そんな声を受け

感染症対策を工夫しながら、まずは「書道サークル」が再開しました！

再開できてよかった～！





『集える場』があるって、ほんま、ええわ～！

奇しくもコロナ禍の中で『集える場』の大切さに改めて気づかされ、参加者の思いに応え、主催者の熱意と工夫によって再開することができた活動です。

『みんなの居場所』参加者の思い

コロナで中止になった時…

- 誰とも会えんし何もできへんし、体調が悪くなるぐらい気持ちが沈んでいた
- (書道サークル講師からの) 手紙がすごくうれしかった
- 孤独感を感じていた
- 寂しかった
- 「みんな元気かな？」と思ってた

サークルが再開して…

- 休止中は気分が沈んでいたが、サークルが再開して元気になった
- 嬉しい
- (終わると自宅では一人なので) 開催中だけ嬉しい



再開後の様子
書道サークル

活動者の思い

コロナ禍で次々と地域の集いの場が休止となり、お元気だった方々の健康状態が次々と悪くなっている現状を目の当たりにし、どうにか再開できないかという思いがありました。

介護予防の観点からすれば早期の再開が望ましいが、感染予防という点ではリスク面などから休止すべきでは、という相反する中での葛藤がありました。

しかし、終わりの見えない中、「このまま何もせんでええんか?」「工夫次第では再開できるんちゃうか?」との考えが芽生えました。いろんな方々の力を借りて試行錯誤しスタイルを変えてにはなりましたが、8月分より何とか再開することができました。

また、参加者のみなさんの思いを知っていく中で、『みんなの居場所』という場所が参加者の精神的な支えにもなっていることを改めて実感しました。

介護予防と感染予防の両方の観点を両立させていく事は容易ではないですが、みなさんの思いにお応えできるよう、努力して開催していきたいと思っております。

玉出地域包括支援センター 下南さん



生活支援コーディネーターとして、活動者のみなさんに新しい

生活様式を取り入れながら活動再開をすすめていただきたいという思いから、今回の機関紙を発行しました。

感染リスクと介護予防の間で葛藤するなかで、参加していた方の居場所への思いから活動再開に向けて踏み出された、玉出地域包括支援センター『みんなの居場所』の取組みは、参加できる場所が減った地域のみなさんだけでなく、活動再開を迷っておられる活動者のみなさんにとっても明るいニュースになると思います。

生活支援コーディネーターは地域の思いのつなぎ役

活動再開した場と
活動再開や新たな活動を考える場をつなぐ



生活支援コーディネーター

活動再開についての情報を他の活動者や地域につなぐ

活動者や参加者の思いを他の活動者や地域につなぐ

活動再開や新たな取組みを考えているみなさん、ぜひご一報いただき、一緒に考えていきましょう！



生活支援
コーディネーター
杉本